



ゆづりは

堺市立図書館だより

第6巻 第2号 (通巻20号)
 発行日 平成23年 9月10日
 編集・発行 堺市立中央図書館
 〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1
 電話 072(244)3811
 Fax 072(244)3321
 URL <http://www.lib-sakai.jp/>

堺歴史文化市民講座 第1回「堺と大和川」

平成23年8月14日(日)中央図書館集
会室において、大和川市民ネットワーク事務
局長の小松清生さんを迎え、「堺と大和川」と
いうタイトルで講座を開催しました。あわせ
て、8月3日(水)から14日(日)まで、
中央図書館のロビーで、大和川に関する写真



や資料を展示しました。
講座では、小学校の教諭だった小松さんから、
大和川の付け替えの歴史や、小学校での子どもた
ちとの大和川の勉強の様子、美しい大和川復活へ
むけての活動などについて、『大和川かるた』の
絵札とからめて、わかりやすくおはなしがありま
した。

参加された方々からも「大和川の歴史と市民の活動がよくわかった」、
「かるたを交えた話がわかりやすく、面白く知ることができた」などの感想をいただきました。



目次

堺歴史文化市民講座
第1回「堺と大和川」 … 1

資料(点検)整理期間による
休館のお知らせ … 1

図書館
わくわくパレード'11夏 … 2

シリーズ堺の〇〇
堺の祭 出島浜鯨まつり … 2

わたしの“とっておきの一冊”
その15 (大学生特集) … 2

堺かるた いろはの「れ」 … 3

この本で解決!
～堺事件当時の大和橋は? … 3

司書のイチ押し!
『おさがしの本は』… 4

一部の図書のラベルと配置が
変わります… 4

堺市立図書館電話番号一覧 … 4

ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、
堺生まれの詩人、河井醉茗氏の
歌碑があります。

年ごとに
ゆづりゆづりて 譲り葉の
ゆづりしあとに また新しく

この歌にちなみ、年月を経
て、世代を越えても、次々に新
しい情報をお伝えできるよう
に、堺市立図書館だよりに「ゆ
づりは」と名づけました。
(河井醉茗氏については、「ゆ
づりは」通巻第1号にご紹介し
ています。)



市民講座次回の予定

堺歴史文化市民講座の第2回
は、「百舌鳥と世界遺産」と題し、
10月23日(日)に開催します。
京都橋大学文学部文化財学科教
授の一瀬和夫氏を講師に迎え、世
界文化遺産登録を目指す百舌鳥古
墳群についてお話していただく予
定です。
詳しくは、館内ポスターやちら
し、広報さかい10月号でお知ら
せします。

資料(点検)整理期間による
休館のお知らせ

西図書館
10月4日(火)～7日(金)

中図書館
10月12日(水)～14日(金)

東百舌鳥分館
10月20日(木)～21日(金)

堺市駅前分館
11月30日(水)～12月2日(金)

中央図書館
12月6日(火)～9日(金)

北図書館
12月13日(火)～16日(金)

館内にある資料の点検や配置
換えを行います。

図書館わくわくパレード'11夏

楽しい思い出になったかな？



全課程を終えて修了証を手にした一日図書館員講座受講生、カウンターでの貸出・返却の実習もがんばりました。お疲れ様でした！

今年も市内の各図書館では、ボランティア団体の協力により、おはなし大会や手作り教室、子ども読書ふれあいフェスタ、体験講座など、子どもたちのためのイベントが行われました。

新しいことに挑戦したり、調べ物や自由研究をしたり、遊びも勉強もがんばりました。

子どもたちの笑顔が館内のあちこちで見られました。



区役所ロビーで「絵本のひろば」を開催。絵本の展示やよみきかせでにぎわいました。

シリーズ 堺の〇〇

堺の祭 出島浜鯨まつり

大漁と海の安全を祈願する鯨まつりは、全国各地にその風習が残っていますが、鎌倉時代末期に始まったという堺の「出島浜鯨まつり」は、なかでも仕掛けが大規模で有名でした。

明治以降ではおよそ20年ごとに4回行われていたこのおまつりは、昭和29(1954)年を最後に途絶えていましたが、住吉大社鎮座1800年にあたる今年、地元住民が協力して、57年ぶりに復活となりました。

全長約13メートルの巨大な鯨の山車は、平成23年7月24日(日)に住吉大社に奉納された後、8月1日(月)に宿院頓宮へ向け出発。蘇ったくじら音頭の行列をお供に、ときおり潮を吹いては沿道の市民の歓声を浴びていました。



参考文献：

- 『堺泉州 第19号』堺泉州出版会
- 『大阪春秋 第122号(平成18年春号)特集 堺』新風書房
- 『新しくじら音頭』(CD) 卓道音楽工房/制作
- 『住吉信仰-いのちの根源、海の神』真弓常忠/著 朱鷺書房
- 『クジラと日本人』大隅清治/著 岩波書店

わたしの“とっておきの一冊” その15(大学生特集)

実習にこられた大学生に、とっておきの本を紹介してもらいました。

◆『アナザヘヴン』飯田譲治 角川書店
2人の男の刑事(とその周りの人達)が、ある事件に巻き込まれていく話です。個性豊かな登場人物、ハラハラドキドキな展開。もう、ページをめくる手を止めることはできません！

◆『ツ、イ、ラ、ク』姫野カオルコ 角川書店
人生経験が豊富な人でなければ、一度読んだだけでは理解するのが難しい。そんな恋愛小説だと思います。経験を積みれば積むほど解釈が変わる、いくつになっても、何回読んでも飽きない作品だと思います。

◆『うさこちゃんとたれみみくん』
ディック・ブルーナ 福音館書店
世界的に有名なミッフィーちゃんの絵本シリーズです。

うさこちゃんが通っている学校に障害者の男の子が転入してきました。クラスの皆は男の子の本当の名前ではなく「たれみみくん」と呼んでからかうけれど、うさこちゃんは、男の子が本当は嫌がっているのだと気づくのでした。

◆『Little DJ 小さな恋の物語』
鬼塚 忠 ポプラ社
あるひ、小学生の太郎は白血病だと宣告された。余命は九ヶ月。

入院せざるをえない太郎は、いつしか病院のDJになる。そんな中、ある女の子に出会い、小さな恋物語がはじまる。「本を読んで泣く」ということにどこか抵抗を感じていた時に出会った本。エンディングにつれて、涙が止まらない一冊でした。

堺かるた - いろはの「れ」
「連絡のために堺は 南朝港」



南北朝の時代、南朝の中心は山深い吉野の地にあったため、堺は中国や四国、和歌山に点在する味方との連絡や物資の運搬に重要な港でした。

延元3年（1338）5月、堺で北朝方と南朝方の合戦があり、南朝方を率いて転戦した北畠顕家は同月22日石津で戦死。「股肱の重臣あへなく戦場の草の露と消えたまひしかば、南都の侍臣・官軍も、聞きて力をぞ失ひける」と太平記に記されています。

参考文献：

- 『むかしのさかい』（堺児童文化振興会）
- 『堺市史』（堺市役所）
- 『太平記 新潮日本古典集成』（新潮社）

この本で解決！
～堺事件当時の大和橋は？～

堺歴史文化市民講座にちなみ、今回は大和川に架かる大和橋に関する質問をご紹介します。

Q：堺事件の資料の中で、「ヤマトバシ」の地名が書かれている。この橋はどこにかかっていた橋か知りたい。

A：「堺事件」とは、慶応4年＝明治元年（1868年）、堺港を警備していた土佐藩士が、上陸したフランス水兵11名を殺害、フランス公使の抗議により、関わった侍11名が妙国寺で切腹した事件です。

『堺市史』では第三巻本編第三の771ページから詳しく、次のように書かれています。

“事件の突発した二月十五日の払暁、フランス人二名は宇和島藩士と共に大阪から陸路堺へ入らんとし大和橋に来たり、箕浦猪之吉、西村左平次の率いる警備隊に食い止められて引き返した。”

このことから、資料に書かれていたのは、大阪から陸路堺に至る橋であり、大和川にかかる大和橋であろうと判断しました。



図書館 HP「デジタル郷土資料展」で大和川関連の絵図や写真などをご覧ください。

http://www.lib-sakai.jp/kyoudo/kyo_digi/kyo_digimoku.htm

事件当時の大和橋については、『大阪の橋』（松籟社）、『八百八橋物語』（松籟社）、『大阪の橋ものがたり』（創元社）、『摂津名所図会』（臨川書店）から、設置当時から移動していないことが読み取れるため、事件当時の大和橋も、現在の堺区と大阪市住之江区をつなぐ、紀州街道筋に位置していたと考えられます。



明治時代の
大和橋



現在の
大和橋

司書のイチ押し!

『おさがしの本は』

門井慶喜／著 光文社

堺市の各区域図書館では「貸出」「返却」だけでなく「調査・相談（レファレンス）」のためのカウンターを設置しており、日々さまざまな調べもののお手伝いをしています。専用カウンターを置いていない分館でも「貸出」「返却」のご用件とともに、ご質問をお伺いしています。

調べものなら、インターネットの検索サイトなどを使ってなんでも手軽にできるんじゃないか、とお考えのかたもいらっしゃるかと思います。確かにインターネットは便利なツールですし、私たちも利用しますが、残念ながら万能ではありませんし、それだけでは足りません。

では、私たち司書はどのように図書館の資料やその他のツールを使って調べものを進め、回答にたどりつくのでしょうか。

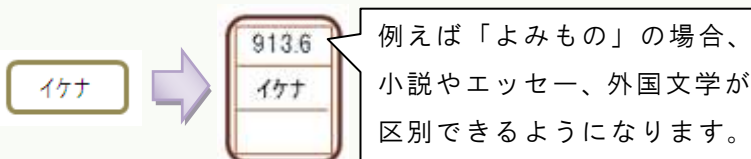
実際にレファレンスカウンターを利用し、回答の載った資料を提示され、その様子をご覧になったかたであっても、回答にたどりつくまでの司書の思考回路まで目にしているわけではありませんよね。

「おさがしの本は」の主人公は、ある市立図書館のレファレンスカウンターで働いて3年目。

一部の図書のラベルと配置が変わります

図書館では、図書を主題別に分類するため、日本十進分類法第8版を使用してきましたが、より細かな分類を行うため、最新の第9版を採用することになりました。

基本的な配列は変わりませんが、一部の図書は背表紙のラベルが新しくなり、配置場所も変わります。



順々に変更するため、当面は第8版と第9版で分類した図書が混在することになります。詳しくは館内の掲示物をご確認いただくか、職員までお問い合わせください。

レポートの締め切りを抱えて「シンリン太郎」のことを調べに来た女子学生、こどものころに買ってもらった「赤い富士山の写真」が表紙に載っている本を探したい男性、亡くなった夫が借りたまの「ハヤカワの本」を返したいおばあさん、といった人たちの話を聞き、その質問の真に意図する事柄をひもといていきますが、どれも一筋縄ではいきません。「シンリン太郎」は「森林太郎」でそれは別の筆名をもつあの人のことだろう、「赤い富士山」といえば葛飾北斎のあれだろうけど写真じゃないよな、「ハヤカワの本」ならミステリでおなじみの・・・みなさんもおそらく思い浮かべたように、主人公もまずはそこから始めるのですが、あれこれ行き詰ったり、うっかり落とし穴にはまったりといったプロセスを経て回答にたどりつくまで読み進むうちに、調べものの奥深さにふれることができます。

すべてのエピソードに明確な回答が示されるのも、図書館の置かれている今日的状況を意識した他のエピソードや結末も、フィクションなればこそですが、「市民のくらしに役立つ図書館」を知っていただくきっかけになる1冊です。(M)

堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415
中央図書館	244-3811
くすのき号	244-3811
堺市駅前分館	222-0140
中図書館	270-8140
東百舌鳥分館	234-9600
東図書館	235-1345
初芝分館	286-0071
西図書館	271-2032
南図書館	294-0123
梅分館	296-0025
美木多分館	296-2111
北図書館	258-6850
美原図書館	369-1166
人権ふれあいセンター図書ホール	245-2534
青少年センター図書室	228-6331

ホームページ URL

<http://www.lib-sakai.jp>

携帯ホームページ URL

<http://www.lib-sakai.jp/m/>

